



Certified Experience Design

申請の例題

過去の申請事例に基づく書き方の申請サンプル

申請事例情報 ①

<申請記述例> Drip Navi

項目	内容	No.
申請対象名称 (英語表記)	ドリップナビ Drip Navi	
申請部門 (選択)	A 体験テーマ設計部門 製品・システム・サービスが個別または連携して、それ自体が革新的な経験価値を生むための設計である。 B : 体験プロセス設計部門 革新的なプロセスを通して、製品・システム・サービスが新たな経験価値を生むための設計である。 C : 体験設計インフラ部門 革新的な経験価値を設計するために有効性のあるツールや新たな基盤となるプラットフォームである。	
申請対象の概要	「Drip Navi」は医療現場での輸液業務の効率と安全性を担保するために開発された製品システムです。患者に対する医薬品投与のための輸液は定量を一定時間に行い、閉塞や停滞を監視するためのツールとシステムです。点滴筒に設置されたセンサーにより投与流量を計測し、正常投与は緑、過投与は赤、投与遅延は青に点滅して状況を一見把握できます。 また、投与量の設定はクレンメ操作による直感的なグラフィックインタラクションにより、誰でも効率よく、精度よく行うことができます。しかも、この操作は専用端末だけでなく、スマートフォンアプリケーションとなっているため、ナースコールと兼ねたスマートフォンを利用することで、取得データの視覚化も可能です。 更に、それぞれの患者の投与状況は院内無線網により、ナースステーションで一括管理可能なため、看護師の作業効率を圧倒的に改善できます。	
推薦者(選択)	自薦 他薦	

項目	内容
<p>体験設計 設計ポイント (簡潔に言うと)</p>	<p>看護現場の輸液処置において、看護師の潜在ニーズに応える安心・安全の確保、作業効率化にも繋がる体験設計を実現</p>
<p>申請事例における 具体的な 設計プロセスや 提供する体験価値</p>	<p>●体験設計プロセス</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護師の輸液業務を観察するとともに、ベテラン看護師や新人看護師からの業務についての聞き取りを行い、これを収集した。 ② 収集した事象を体系化し、看護師や患者、病院関係者の本質的要求を抽出した。 <p>看護師（ユーザー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟練者から初心者まで、安定した精度での輸液量が設定できる。 ・感性的な計測表示で感覚的にクレンメ操作をしたい。 ・輸液業務でのスムーズな引継ぎがしたい。 ・患者一人一人の輸液管理が容易にできるコンパクトな機材が欲しい。 <p>医師、病院経営者、医療機器技術者（ステークホルダー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤等の難易度の高い輸液では強制注入の輸液ポンプより、自然滴下の流量精度向上で対応したい。 ・輸液ポンプの多量の設置とその管理の負担を軽減したい。 <p>患者（ソーシャル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉塞や空液での警報音と光による周囲の患者への迷惑を軽減したい。 ・点滴の状況をいつも見てほしい。 <ol style="list-style-type: none"> ③ 看護師のペルソナを立てて、バリュー、アクティビティ、インタラクションシナリオと開発進め、その仮仕様を設定した。 ④ 仕様に基つき、多くの試作を行い、最終的にセンサー部とコントローラ部を分離した施策にたどり着き、特許の申請に至る。 ⑤ 最終試作は、プロトタイプとして、各協力病院にて、モニター使用を行い、現場の意見を取り入れ、改良を重ねた。同時にiPhone用のアプリケーション開発も進めた。

申請事例情報 ③

<申請記述例> Drip Navi

項目	内容 (①、②の詳細)
設計した体験が 目指すビジョン/姿	「自然滴下点滴の安全で効率的な管理」 関係者の安心/安全と効率、精度を確保し、点滴作業の共有化で組織的な点滴管理を目指します
体験に主に関与する人	看護師と入院中の患者
体験の状況・環境	大小の病院の看護現場（病室、ナースステーション）
ユーザーの 体験過程 (時間軸)	作業開始：点滴バッグとドリップナビを病室に運ぶ →小型で簡単に持ち運べるので楽 患者と薬剤を確認して、点滴筒にナビをセット。→特別な知識は不要 患者の輸液回路を繋ぐ。 設定：ナビとコントローラをペアリングして、コントローラに輸液時間と輸液量を入れる クレンメを開きながら、感覚的な表示を基に「にこちゃん」マークが出るところまでセット 点滴筒にセットされたナビがブルーに点滅。 →直感的に正しい点滴量に合わせられるので安心 複数の患者の発光を見て点滴状況を確認 →直観的に、一目で確認できる
ユーザー・顧客の声	看護師：「点滴状況の見守りがしやすくなった。」 医師：「精度を確保した点滴が実施できる。」 病院経営者、医療機器管理者：「高額で管理の大変な輸液ポンプ数を制限できる。」 患者とその家族：「点滴がいつも見守られている感じがする。」

申請事例情報 ④

<申請記述例> Drip Navi

項目	内容(①、②の詳細)
設計した体験が影響する関係者	<ul style="list-style-type: none">・ユーザー：看護師、看護責任者・顧客：医師、病院の医療機器管理者、病院経営者・周りの人々：患者、患者の家族・雇用者：医療機器納入者（含む保守点検員）
設計した体験の変革起点	病院の看護シーンの困り事を起点とした看護業務の変革のためのIoTを活用した体験設計
設計を実現するための協業や連携	<ul style="list-style-type: none">・東京医科歯科大学や大手病院看護課と意見交換・体験設計のノウハウを提供する「ホロンクリエイト」と協業・スマートフォンアプリ開発企業とのコラボレーション
体験を導入、定着させる方法	病院でのトライアル使用、日本看護学会での展示説明等を通して、導入をスムーズにする意見を収集しシステムに反映させた
体験設計に関わった関係者の声	開発者：「プロトタイプをたくさん作って試してもらいました。良い意見をもらいました。」 デザイナー：「これまでにない、看護師さんのための初めての道具なので、なじみの良いものとなりました。」